令和５年度第１回神奈川県がん協議会　議事録

日　　時　令和５年６月 26 日（月）13 時 00 分～15 時 00 分
開　　催　オンライン
出席委員　片山　佳代子（群馬大学情報学部情報学科 准教授）
　　助友　裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授）
　　長谷川　一男（神奈川県がん患者団体連合会　理事）
　　田川　尚登（NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト　代表理事）
　　蛭田　昌（神奈川県ＰＴＡ協議会　執行役員）
　　金子　雄志（神奈川県中学校体育連盟　副会長）
　　水谷　めぐみ（神奈川県学校保健連合会養護教諭部会　部会長）
　　下山田　義行（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策　課長）
　　代理出席　加藤　義雅（神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課　主幹）
　　磯貝　靖子（神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育　課長）
その他参加者
　　白澤　薫（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課　副主幹）

（事務局）
　それでは定刻になりましたので、ただいまから、「令和５年度第１回神奈川県がん教育協議会」を始めさせていただきます。
　私は、事務局を務めさせていただいている県教育委員会保健体育課の上野と申します。
　開催に先立ち、保健体育課長の磯貝より御挨拶申し上げます。
（保健体育課長）
　皆さま、こんにちは。県教育委員会保健体育課長の磯貝でございます。
　本日はお忙しい中、「令和５年度第１回神奈川県がん教育協議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
　今年度も昨年に引き続きまして、オンラインで実施させていただいております。
　県教育委員会では、平成 26 年度から文部科学省の「がん教育総合支援事業」を受託し、がん・疾病対策課と連携を図り、本日ご参加の皆様のご協力の下、教員向けの研修、モデル授業の実施、また、教材の作成に取り組んでまいりました。
　さらに、昨年度は、外部講師を活用したがん教育/研究授業の実施校数を大幅に増やすとともに、神奈川県がん教育ガイドラインを作成し、各学校での活用を促しているところです。加えて、がん疾病対策課及び民間製薬会社と連携を図り。医療関係者向け指導者研修も実施することが出来ました。
　このような成果が文部科学省から評価され、今年１月に開催されました、「全国がん教育

シンポジウム」において、当課の指導主事が本県の取組について発表する機会をいただき、神奈川県のがん教育を全国に発信することができました。誠にありがとうございます。
本日は、皆様から、多くの意見を頂き、ともに、学校におけるがん教育について考えてまいりたいと存じます。
　今後とも、神奈川県におけるがん教育の推進に向けました、専門的な見地からのご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。
（事務局）
　それでは、事前に県のオンラインストレージ等で送付させていただいた資料を確認させていただきます。
　資料１～資料７となっております。不足等がございましたらお申出ください。なお、本協議会は議事録作成のため録画させていただきます。御承知おきください。
　続きまして、委員の御紹介をさせていただきます。今年度初めての協議会ですので、委員の皆様より一言ずついただけますでしょうか。御紹介させていただいた順にお願いします。
（※各委員から挨拶）
（事務局）
　それでは続きまして、座長の選出に移らせていただきます。座長につきましては事務局案としまして、神奈川県においてがん教育を中心的に推進していただいている県立がんセンター及び群馬大学に所属しております、片山先生を提案いたします。委員の皆様いかがでしょうか。
　賛成多数とお見受けします。
　それでは、委員の皆様の互選により、片山委員に協議会の座長をお願いいたしますので、よろしくお願いします。
　この先の進行は、座長にお願いしたいと思います。
（片山委員）
　承知しました。今年度も座長を務めさせていただきます。どうぞ皆様お力添えをお願いいたします。それでは進行を続けていきたいと思います。
（片山委員）
　副座長についてご検討いただきたいのですが、座長が指名させていただきます。副座長には、学校教育に精通している磯貝委員が適任と思います。皆様方、磯貝委員、いかがでしょうか。こちらについてもご賛同いただけたと思います。磯貝委員どうぞよろしくお願いいたします。
　（磯貝委員　承諾）
　それでは、磯貝委員に副座長に就任いただきますので、皆様よろしくお願いいたします。
当会議について、原則公開とします。

なお、県に対して情報公開請求があった場合には、「議事録」及び「資料」は行政文書として、情報公開の対象になりますので、委員の皆様には御承知おきいただきたいと思います。

それでは本日の議題に入ります。

報告事項「ア　令和４年度がん教育総合支援事業　事業成果報告について」事務局より説明をお願いします。

（事務局）

県教育委員会保健体育課の佐藤と申します。よろしくお願いします。【資料１】を御覧ください。昨年度のがん教育協議会は、オンラインを活用し、第１回は６月 22 日、第２回は２月３日に開催しました。

県教育委員会としての取組は、教員向けのがん教育指導者研修講座を２回行い、第１回 317 名、第２回 223 名の参加がありました。県立高等学校については、昨年度から参加を希望制から悉皆に変更しています。また、がん疾病対策課と民間製薬会社と連携させていただき、医療関係者向け指導者研修を初めて実施することができました。

さらに、神奈川県がん教育動画教材や神奈川県がん教育ガイドラインを作成しました。

研究授業における取組として、外部講師を活用した「がん教育」の授業は、令和３年度、４校でしたが、昨年度は 12 校で実施することができました。皆様の御支援があってこそと感じております。報告について以上となります。

（片山委員）

報告について、御質問・御意見はございますか。よろしいでしょうか。

特にないということで先に進めます。

（片山委員）

次は、協議事項「ア　令和５年度がん教育等外部講師連携支援事業　事業計画について」事務局より説明をお願いします。

（事務局）

【資料２－１、２－２】をご覧ください。文部科学省の「がん教育総合支援事業」は、今年度からがん教育等外部講師連携支援事業と名称が変更しております。「がん教育等」という部分は、文科省に確認したところ、がん患者だけではなく、家族や、がん以外の病気も含まれるという意味合いとのことです。

本県との文科省との委託契約の締結は６月 12 日となり、期間は令和６年２月 29 日までです。協議会につきましては、本日と来年１月頃に予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

６月から 12 月にかけては、「外部講師を活用したがん教育授業」を展開していきたいと考えております。新型コロナウイルス感染症の感染状況も踏まえ、進めていく予定です。

昨年度は 12 校実施で、今年度はさらに多く、文部科学省に 30 校分の計画を申請して通りましたので、着実に実施、推進していきます。現段階ですが、早めの広報により、昨年度を

上回る勢いで本日までのところ26校の希望を頂いております。30校にとどまらず、予算の許す限り、実施校数の増加を目指して頑張りたいと思います。

教員向け研修では、昨年度までのアンケートで、教員から実際のがん教育授業を観たいとの要望が多かったため、今年度、藤沢市立第一中学校と県立七里ガ浜高等学校の授業を録画し、教職員向け研修で動画配信する予定です。以上となります。

（片山委員）

協議事項について、御質問・御意見はございますか。よろしいでしょうか。続いてまいりたいと思います。

（片山委員）

次は、イ　令和５年度神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

【資料３】をご覧ください。今年度もオンラインで高等学校は悉皆とし、学校の夏季休業期間に教員が、動画視聴できるよう工夫しました。講師の方は、片山先生、助友先生、田川先生に御講義いただき、動画のアップロード期間は７月21日（金）から８月31日（木）を予定しています。さらに、先ほどお伝えしたとおり、授業実践の動画を配信予定です。中学校では県がん連の長谷川様、高等学校では県立がんセンターの氷室医師に外部講師を担当していただき、授業を実践したいと考えております。

以上となります。

（片山委員）

本件について、御質問・御意見はございますか。よろしいでしょうか。

（片山委員）

次に「ウ　令和５年度がん教育授業に係る実施校募集要項について」事務局より説明をお願いします。

（事務局）

【資料４】をご覧ください。

平成29年度から実施している、外部講師を活用したがん教育授業の募集要項です。各校には要項に加え、今年度につきましては昨年度作成した神奈川県がん教育ガイドラインも送付しました。事務局としては、保健の授業に限らず、他教科の実践事例を増やすために研修や学校訪問時等の、あらゆる機会を活用して広報していきたいと考えております。

今年度は小中学校での実施校数を増やすため、昨年度末から教育事務祖や各市町村教育委員会の担当者に、私が直接ご案内、ご説明の連絡を入れさせていただいております。

この件につきまして、以上となります。

（片山委員）

本件について、御質問・御意見はございますか。

神奈川県がん教育ガイドラインも送付されているということですが、こちらをご覧にな

った方から、問い合わせ等ありましたでしょうか。
（事務局）
はい。各市町村の担当者や教員からも、どうやってがん教育を進めていけば良いかわからなかったので、参考になったという御意見をいただいています。支援してくださった皆様のご協力があって完成したものです。内容を更新しながら、引き続き周知していきたいと思っています。
（片山委員）
その他、御質問・御意見はございますか。　よろしいでしょうか。それでは次にまいりたいと思います。
（片山委員）
次に「エ　がん教育動画教材の追加について」事務局より説明をお願いします。
（事務局）
【資料６】をご覧ください。
がん教育動画教材の追加や更新について、委員の皆様をはじめ、昨年度、医療関係者向け研修を受講し、動画作成を引き受けても良いと回答いただいた医療関係者やがん経験者に御協力いただければと思います。今後、片山委員、県立がんセンターの皆様と相談させていただきながら、進めてまいります。
（片山委員）
画面共有をされているところですが、令和４年外部講師リストは、医療関係者がセミナーを受講していただいた方ということになっています。ア～ケのコンテンツの中で、自分だったら動画作成の中でどの部分が協力できるか、アンケートの中で、回答していただいているかと思います。白澤様何か御意見ありますか。
（事務局）
承知いたしました。
（白澤副主幹）
片山先生の御依頼により、動画作成の賛同者に係るアンケートリストを作りましたので、画面共有をお願いいたします。昨年も片山先生がおっしゃっていましたが、確かに、動画作成の希望テーマについて偏りがあります。がんとは、のテーマの希望者が少なく、早期発見のテーマが多いです。また、がん患者への理解と共生が少ないです。今年度も民間製薬会社は、医療従事者研修を実施する方向で動いています。今年度も研修会をさせていただいて、このリストを増やしていけたらと思っているところです。
（片山委員）
動画を作成いただけるテーマというところは、ご本人の持っているテーマというところになるかと思います。がん治療法ですとか、そういったところは担当出来るという医師等が多いとお見受けしています。全く希望がなかったテーマはどうしようか、今年度の研修テーマについては具体的に動画を作ってみても良いかなと、内容のセミナーを作っていかなけ

ればならないと考えた次第です。その他、動画について具体的にご意見等、御座いますでしょうか。同じく外部講師で患者様達の研修を一手に引き受けてくださっている県がん連の長谷川様いかがでしょうか。今後タッグを組んでいくとなった時に、こういったリストの中から医療者を選んでいただくということになるかと思うのですが。何かご意見ご感想ご要望があれば。今からだったら、色々なことが出来ると思いますので。

（長谷川委員）

そうですね。私の希望といたしましては、昨年もこういったリストを見た時に、本当に多職種の方が手を挙げてくださったということに驚きであり、強みではないかと思っております。動画になるときも薬剤師さんであったり、作業療法士さんあったり、看護師さん等、色々な方々が関わってくださるととても素晴らしいものになるのではないかと思っている次第です。以上です。

（片山委員）

確かにそうですよね。様々な職種の方が手を挙げてくださっていると、私もしておりますし、神奈川県は全国に先駆けて家庭科の授業で、がん教育を行ったという事例がございますので、担当いただきました外部講師は、医療職ではなくて、管理栄養士という専門職を持った職員に請け負っていただいたという経緯がございます。この辺は、新しく委員になられた方はご存じないかと思いますので、佐藤指導主事からご説明いただけますでしょうか。

（事務局）

昨年度、県立七里ガ浜高校の３年生、家庭科の授業で実施をさせていただきました。フードデザインというところで、がん患者にどういった栄養面での支援をしたら良いかということを、考えていく内容で授業を実施させていただきました。文部科学省や他校から高い評価を得ました。内容については、文部科学省ウェブサイトでも掲載させていただく予定です。今年度も保健、道徳、総合等の時間以外にも他教科での実践というものにチャレンジしていきたいと考えております。

（片山委員）

簡潔にありがとうございます。

本当に家庭科でやるという、ひとつの大きな特徴が、これまで、がん教育ってどうしても予防に重点を置きがちな講義構成になってしまっていたのですが、既にがんになってしまった人のケアを多種職でどのように支えているのかという、色々な観点から、管理栄養士から紐解いていただくという授業内容になっていると思っています。とても見ごたえのある、２時間まとめてやらせていただいた、見ごたえのあるがん教育授業だったと思っております。

（片山委員）

他にないでしょうか。それでは、がん教育の動画については引き続き、がんセンターの職員等も含めて、新しいものを作っていくことでよろしいでしょうか。

（片山委員）
　次に「カ　指導用補助資料（令和５年６月改訂)」についてがん疾病対策課より説明をお願いします。
（白澤副主幹）
【資料７－１、７－２】をご覧ください。
　去年まで、がんになる人が 70,119 人、73,006 人と増加しています。
　死亡者数の３割が、がん、というところですけれども、去年は 28.5%だったところが、29%に増加しています。
　がんは死亡原因の第１位のところが、前回 23,974 人がこちらもまた増えている人数になっております。
　がん検診受診率の低さが原因のひとつのところが、左が古いグラフ、右側が新しいグラフで、日本の割合は、変わらなかったのですが、何かもっと良いデータがあるか、もう少し時間をかけたいと思っています。
　国立がん研究センターの情報が更新されていましたので、図を変更し、がんで亡くなった人のコメントがある、男性 30%、女性 5%というところも変更しました。こちらは実際にたばこを吸っている人がなりやすいがんになります。
　たばこの受動喫煙でなりやすいがん種、こちらの図に変更しています。
　マナーからルールへ　こちらの方も県で更新して違うものになっています。
　子宮頸がんワクチンの通知文を重要なものなので、４ページに分けて掲載しています。ワクチンをぜひ受けていただきたいという県の通知になります。
　まだがん検診の受診率と、国民生活基礎調査が出ていないため、修正出来ていないとこともあります。
　がんを専門的に治療できる病院については、更新しています。
　ゲノムの拠点病院が、これから更新されますので、こちらの資料は、確定していません。まだ、良い資料があれば更新していきたいと思いますので、ご意見があればよろしくお願いいたします。
（片山委員）
　資料について、御質問・御意見はございますか。助友先生いかがでしょうか。
（助友委員）
　オリジナリティが出ていて良いと思います。特に病院を探す所の地図は、神奈川県のオリジナリティが出ていて良いです。１次、２次、３次予防というところの具体的な教材がなかったので、気に入りました。こういった情報のアップデートは、なかなか教育委員会だけでは出来ないことなので、がん疾病対策課さんで担っていただくのは、神奈川県の非常に大きな強みであると感じました。
（片山委員）
　他にいかがでしょうか。がん疾病対策課と教育委員会とのコラボレーションの部分をお

褒めいただきました。
（片山委員）
がん疾病対策課に質問です。
私は、がん対策のがん検診制度部会に関連することが多いのですが、日本のがん検診の課題に直面しております。個人的にも専門家の先生方も危機感を持っていらっしゃる先生方がたくさんいると思います。スライドの中に日本がん検診の値が出ていて、受診勧奨をすすめたいというところなのでしょうけれども、その数字はどこから出されたものか明記した方が良いと思っています。職域が入っていないので、市町村別にデータを見ると、横浜市が低く出てしまうと思います。対策型検診ではなくて、職域型検診、これを見ると、がん統計は入っていないのか、職域は入っていない、職域基礎調査だけなのかという、明らかにした方が良いのかと思っています。
日本は数値が低いイメージがあるけれども、誰も真の値を知らないので、どれ位の人が受けているのか誰も把握出来ていない状況であるのに、あまり強調しない方が良いのではないでしょうか。
個人的には、がん検診率の低さが原因と言ってよいのか、考えてしまいます。数字が独り歩きするような出し方は良くないと思います。
（下山田委員）
データの方は、今、ご指摘いただいたこともありますので、見やすいように適宜直していければと思っております。
全体的な感想をここで申し上げてもよろしいでしょうか。
保健体育課の取組が非常に素晴らしい勢いで進んでいると思っています。２年前とかに比べますと、外部講師活用など、非常に増えており、担当の佐藤指導主事のご努力の賜物だと思い、敬意を表したいと思います。
（片山委員）
お褒めのお言葉をいただきました。佐藤指導主事、何かございますか。
（事務局）
ありがとうございます。
（片山委員）
次に「キ　令和５年度医療関係者向け指導者研修」についてがん疾病対策課より説明をお願いします。
（白澤副主幹）
医療従事者向け研修会については、今年の秋以降に同じ製薬会社さんのご協力により２回は開催したいと思っております。今から企画を進めますので、またご意見をいただければと思っております。
（片山委員）
よろしくお願いいたします。

例えば医療者向け研修会について、どなたかご質問ご意見ありますか。

田川先生いかがでしょうか。配慮事項等、ご要望ありませんでしょうか。

製薬会社２社から、助成金をいただきまして、県内県外から参加者が数名いまして、北里の佐々木治一郎先生や白沢さんに一緒に話していただいたりして、片山が座長を務める形で２回ほど研修をさせていただいております。それをご覧になった方から、自分もがん研修の外部講師として参加してみたい、動画を作ってみたいという人のリストを共有させていただきました。

配慮事項とかで、特にこういう話をしてほしいとかいうことはございますか。

（田川委員）

はい。子供に関しては闘病していることが、健常児とは全然　違う立場なので、周りの大人とか近所の人達とか、そういった人達が何か配慮をもって、要するに合理的な配慮って言うか、お手伝いをしていただくとか、戦っている病気の子供に対しての配慮をしてもらう。それを支えている家族についても支えていくような配慮が必要かなと。子供に関して、大人もそうだと思うのですが。あと、職場に対しての配慮とかもあると思うので。

（片山委員）

ありがとうございます。

確かにそうですね。こういった配慮についての研修内容は入れてなかったかと昨年度は思いますので。佐々木委員や白澤副主幹と今年度の内容については詰めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。外部講師、医療者向けのご意見等はございませんか。

（助友委員）

伺ってみたいことがあります。

今年度、文部科学省の授業が「がん教育等」って、がん教育を入口に健康教育を開いていこうという意味合いが含まれていると思います。現場の温度感が知りたいです。例えば中体連の金子委員とかもそうですし、ＰＴＡとして蛭田委員が保護者として、向きを感じているとか、全くとかその辺りをお話しいただきたいと思ったのですが、いかがでしょうか。

（片山委員）

ご指名を受けたお２人の委員いかがでしょうか。

（金子委員）

中体連は中学校の教育の方ですので、保健を中心になるのですが、学校現場では、やはり家庭科や総合的な学習の時間、こちらの方で取り扱う物も増えています。また、患者さんの話となると、道徳的な教材として扱っていることもあります。その面で言うと、多岐に渡る資料が用意されているのは非常に良いのかなと思います。保健の授業では、先ほど提示していただいた教材の所は切り取ってギガスクールの構想の中でも、授業の中でも使えるようになっていますので、加工しながら使っていくということが進んでいます。先週ちょうど、外部講師を活用したがん教育公開授業の募集要項を小学校・中学校・高校の研究会の中でご

紹介いただいた。県立総合教育センター体育指導班の指導主事にご紹介いただいたのですが、たくさんの方が興味を持たれていたので、これからアプローチされるというところがあると思います。

（蛭田委員）

実質、私、小学生の親として参加している次第でございます。上には、高校生の子どもがいるのですが、高校生の方は、がん教育について知っているという話もします。私自身も身内をがんで亡くしたということもあります。以前に比べると学校でのがん教育が進んでいると感心して聞いておりました。感想になりました。

（片山委員）

助友委員いかがでしょうか。

（助友委員）

ありがとうございます。

なるほど。と思いました。今の蛭田委員の話を伺っていても、学校におけるがん教育を保護者に、どうやって周知していくかということに尽きるのだなという感想です。

ありがとうございます。

（片山委員）

がんを発端にと言っては何ですが、あらゆる疾患に対する教育だと思います。平成 25 年に協議会が始まった時に、がんだけ特別扱いするな、というご意見もありました。そこから、ここまで大きく広がってきてくれたと思います。文部科学省が示した「等」という言葉に色々な意味が含まれていると考えております。

その他、ご意見ありますでしょうか。

県養護部会　水谷委員いかがでしょうか。

（水谷委員）

今日は色々とありがとうございました。

私は小学校なので、がん教育そのものということはあまりないのですが、

たばこの害に合わせて、資料にあった肺の写真を見せる等、そういうところで、色々なところがつながっていくという指導はしたことがあります。先ほど、ご家族ががん患者だったというお話があったと思うのですが、小学校でも家族が、がん患者ということはありますので、そういった心のサポートといったところも大事になっていくのではないかと感じました。

本日はありがとうございました。

（長谷川委員）

助友先生にお伺いしたいのですが、昨年、全国のがん患者の連合会が、がん教育の実施調査をした時に、コロナで実施率が下がっていたという調査をだしておりました。そこから、神奈川県も同じような、だんだん上がってきているのかなと思いますけれども、日本全国の大きな流れというところで、拡がりを見せているという感触でしょうか。ぜひ、全国の事例等も交えて、説明していただけますということで、発言しました。

（助友委員）
　がん教育というと、捉え方が色々で、保健体育の教科書に載っている予防のものから、患者さん、医療者を招いて、命に関わる教育をやったという、多岐に渡るものなので、全がん連さんのものがどういった調査されたものなのかどうか。文部科学省にならったような感じなのでしょうか。
（長谷川委員）
　私達が調査したものではなく、全国がん患者団体連合会という全国がん患者団体が 50 集まっている団体で、皆さんのがん教育はどうですかということを質問した時に、コロナの頃、３年前とかですか、ほぼ壊滅とのことでした。
（助友委員）
　文部科学省が悉皆で、神奈川県もとりまとめていましたが、コロナ以前だと６割ちょっとだというデータがありましたけれども、学習指導要領に入っているので、少なくとも予防に関しては 100%やられていないとおかしいということになります。だから、それを効果的にがん教育となるためには、プラスアルファで外部講師を活用してやってほしいという思惑があると思います。そういう意味では、神奈川県は全国で最下位、一方で他県はほぼ 100%みたいな感じで、地域間格差があるという感じですね。
（片山委員）
　外部講師活用率の数値に関しては、正確さにかけるとうことは、文部科学省も把握しております。他県では、薬物乱用教室等でがんについて触れただけでもカウントしているという話も聞いております。あれが正確なものを表してはいないと受け止めています。神奈川県の現在の勢いであれば最下位は脱却出来るのではないかというのは、昨年度の実感でもあります。都道府県毎の順位については、どうかと思うところがあります。そこにあまりとらわれずに、効果的な授業を１回でも多く出来れば、神奈川県としては良いのではと思います。
　がん教育が学習指導要領にしっかりと掲載され、外部講師等活用が明文化されているのであれば、何らかの予算があれば、皆さん、患者さん、医療者、遠くまで対面で授業する機会が今後増えますし、何とか出来ないのか、他県はどうしているのか、気になっているところです。皆さん、予算がないなりに色々な努力をされているのではないかと思っているところです。あえて、発言させていただきました。どなたか他にないでしょうか。
　保健体育課さんどうでしょうか。
（事務局）
　協議会委員の皆様が参加していただき、活発な議論が交わされることで、より一層のがん教育の推進が図られます。感謝しております。次回、第２回がん教育協議会は、１月下旬を予定しておりますが、研究授業等の進捗により時期がずれる可能性があります。期日が近づきましたら、私の方から連絡させていただいますので、年内には一度早めに調整させていただき、ご連絡させていただきます。ご承知おきください。

（片山委員）

それでは、神奈川県がん教育協議会での協議事項については、これで終了させていただきます。皆様、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。